

港北区災害ボランティア連絡会 News



事務局 〒222-0032 横浜市港北区大豆戸町13-1吉田ビル206 港北区社会福祉協議会

TEL 045-547-2324 FAX 045-531-9561

FB 港北区災害ボランティア連絡会

121号

2023年10月



- * 入会は随時受け付けています。
- * あなたの町の防災度を高めるためにお力を貸してください。

天災は忘れた頃にやってくる

「天災は忘れた頃にやってくる」科学者で随筆家の寺田寅彦さんの言葉ですが、最近「忘れる暇もなく」やってくるように感じます。そのために、防災・減災に努めることは当然なのですが、永野海弁護士が「弁護士永野海 法律と防災のページ」

(<http://naganokai.com>) で書かれているように、災害にあったときにどう立ち直るかを考えることも大切だと思います。その時に役に立つのが「地震保険」なのですが、今日は地震保険を少し異なる「観点」でみてみようと思います。

地震保険は、過去の統計や地震予知の研究成果を基礎に、地震の発生の危険性を1～4等地（現在は1～3等地）に分類し、等地ごとに保険料率を定めています。もちろん、神奈川県はずっと、もっとも高い4等地です。

右の表は、気象庁のデータに基づく平成7年以降に「名前」をつけられた大きな地震です。そこに発生地点の

「地震保険の等地」を付け加えてみました。なんと「4等地」での発生がないどころか、兵庫県南部地震（いわゆる阪神・淡路大震災）以外は、すべて「2等地」で発生しています。しかも、東日本大震災で大きな被害をうけた岩手県は「1等地」でした。

令和2年（2020年）1月24日に財務省がだした「地震保険制度について」という文書では、

- 東日本大震災をはじめ、保険料率の低い等地で損害の大きい地震が頻発し、短期的に見ると、等地区区分は被害の実態と必ずしも合致せず。
- 震源モデルの精度にも限界があり、料率格差のみ精緻にしても合理性に欠ける。

と、明確に地震予知の困難さを明記しています。

「だから地震の予知や発生確率はあてにならない」

いえ、そうではないのです。地震の予知が困難であるからこそ、まさに「いつ起きるかわからない」地震について備える必要があるのです。横浜市は長く大きな地震に遭遇していません。しかし「天災は忘れた頃にやってくる」ことを再度、肝に命じたいものです。

（中島）

発生日時	震源・地震名称	M	震度	地震保険
平成7年（1995年）1月17日	明石海峡	7.3	7	4等地中
	平成7年(1995年)			3等地
	兵庫県南部地震			
平成12年（2000年）10月6日	鳥取県西部	7.3	6強	4等地中
	平成12年(2000年)			2等地
	鳥取県西部地震			
成13年（2001年）3月24日	安芸灘	6.7	6弱	4等地中
	平成13年(2001年)			2等地
	芸予地震			
平成15年（2003年）9月26日	釧路沖〔十勝沖〕	8	6弱	4等地中
	平成15年（2003年）			1等地
	十勝沖地震			
平成16年（2004年）10月23日	新潟県中越地方	6.8	7	4等地中
	平成16年（2004年）			2等地
	新潟県中越地震			
平成19年（2007年）3月25日	能登半島沖	6.9	6強	4等地中
	平成19年（2007年）			2等地
	能登半島地震			
平成19年（2007年）7月16日	新潟県上中越沖	6.8	6強	4等地中
	平成19年（2007年）			2等地
	新潟県中越沖地震			
平成20年（2008年）6月14日	岩手県内陸南部	7.2	6強	4等地中
	平成20年（2008年）			1等地
	岩手・宮城内陸地震			
平成23年（2011年）3月11日	三陸沖	9	7	4等地中
	平成23年（2011年）			1等地
	東北地方太平洋沖地震 （東日本大震災）			および 2等地
平成28年（2016年）4月14日～	熊本県熊本地方など	7.3	7 ^{※2}	4等地中
	平成28年（2016年）熊本地震			1等地
平成30年（2018年）9月6日	胆振地方中東部	6.7	7	4等地中
	平成30年北海道胆振東部地震			2等地

（地震のデータは気象庁<https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/higai/>より引用しました）

ぼうさいにくたい

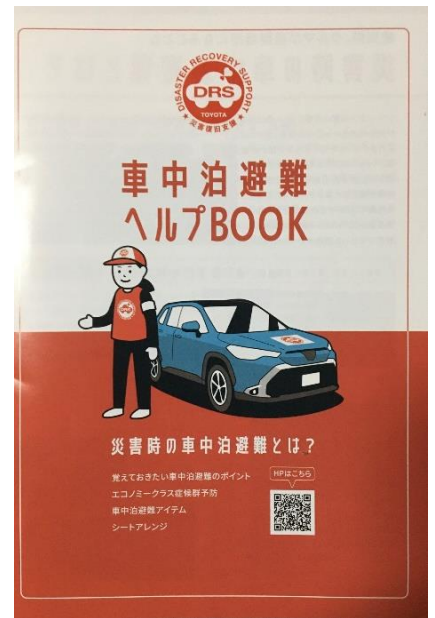
2023レポート

9月17、18日に横浜国立大学を会場に開催されました。出展者数も参加者数も過去一番と言う規模だったようです。横浜駅からのシャトルバス乗り場は長蛇の列で家族連れや若い人も多く、いわゆる防災展示会とは違う雰囲気でも良かったです。その中からお役立ち情報をピックアップします。



○車中泊デモンストラーション

トヨタがプリウスを使って安全な車中泊の展示を行っていました。車中泊はエコノミー症候群を引き起こす危険性が強調されますが、隔離できる空間を必要とする家族や自宅の近くで避難したいなど一定の需要があります。また遠方から参加するボランティアにも必要な手段で、私も中越地震の際は数日を車中泊で過ごしました。安全な車中泊のポイントは寝返りもできるように出来る限りフラットにすることです。家族が多ければ車の横にタープを貼る工夫もすると良いですね。またプリウスは電気供給ができるため、車内にコンセントも配備されている優れものでした。こんなパンフレットもトヨタは作成しています。全国のトヨタの販売店で手に入るようになるとよいですね。



○横浜市避難ナビの進化

以前ニュースでもお勧めした横浜市避難ナビですが、トップ画面右上に「キキクル」(気象庁作成の危険度分布アプリ)が貼り付けられています。これにより横浜市だけでなく日本全体の防災情報をワンタッチで知ることができるようになりました。キキクルは28種類の災害や気象の危険情報を知ることができ、またメニューからは全国の避難所情報も確認できる優れものです。



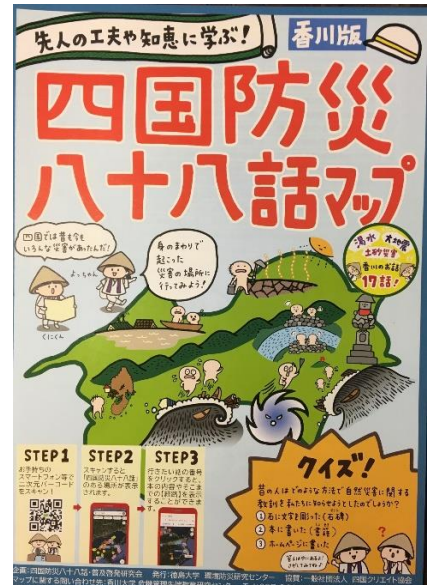
○全国各地の工夫した防災町歩き地図

神奈川県が作った幼児も使える「てくてくまっち」、「四国お遍路風」、中学生と岡山大学の共同制作の「防災すごろく」など、地域性を取り入れた親しみやすい作りのものが多く展示されていました。岡山の防災すごろくは「お風呂に入っているとき地震が来たら」とか「富山中学校の体育館の定員は？」などユニークです。総合の時間を使ったそうですが、

自分たちの住む街の様子を知ることができ、その過程で防災知識も学べる作りに工夫が見られます。



神奈川県作成のかわいいイラストの「てくてくまっち」



香川、愛媛、高知辺ができています。これを持つての遍路もいいかも

◎神奈川県弁護士会

静岡の防災弁護士永野海さん作成の生活再建ゲームの指導をしていました。多くの市民が想定問題から被災した際に受けられる様々な支援内容を学べる良い取り組みだったと思います。神奈川にも士業(弁護士、税理士など)連絡会が既に作られています。いざ発生した場合どこも連携しながらサポート活動を進めていくのかは未解決の課題だそうです。災害が起きた場合どんな法律が適用できるのか、生活再建のためにはどうすれば良いのかについてほとんどの被災自治体は初めての経験のため十分なノウハウを持っていないことが多く、また住民はわかりません。そのため士業連絡会の果たす役割はとて大きいと感じました。

◎罹災証明迅速化ソリューション

被災した場合に様々な手続きや補償金などの受領に欠かせない書類が罹災証明書です。しかし行政の混乱や昨今の人員削減などが原因となり、また基本現地調査が必要なため発行までかなりの時間がかかる場合も出ていていると聞いています。その手間をIT化で省き早期発行につなげるシステムです。FUJIFILMが作ったこのソフトは残念なことに横浜市にはまだ導入していないとか。

導入すれば住民も職員もとても助かると思います。



(文と写真、宇田川)

ボランティアセンター・シミュレーション訓練を実施します

と き:2023年12月10日(日) 10時~12時(予定)

ところ:港北区社会福祉保健活動拠点3階

(港北区社会福祉協議会と同じ場所です)

港北区災害ボランティア連絡会では、2023年12月10日(日)10時から、港北区社会福祉保健活動拠点3階において、港北区社会福祉協議会・港北区役所と合同で、災害ボランティアセンターの開設シミュレーション訓練を行います。

今年度も昨年度に引き続き、昨年度に横浜市社会福祉協議会で開発・リリースされた「災害情報システム」を使っての、災害ボランティアセンターの開設シミュレーション訓練です。スマホやタブレットを使っての、ボランティアの登録や活動報告の入力など、ICT時代のあたらしい災害ボランティアのあり方、災害ボランティアセンターの運営のあり方を体験します。

訓練には、港北区災害ボランティア連絡会の会員だけでなく、どなたでもご参加いただけます。ぜひ、ふるってご参加ください。なお、訓練についてのお問い合わせ・参加の申し込みは、事務局または下記・港北区災害ボランティア連絡会ホームページよりお願いします。

<https://kohoku-saibora.jimdofree.com/シミュレーション訓練参加申し込み/>

(中島)

防災コラム 重要事項説明書

不動産取引では宅地建物取引業法に基づき、物件の内容や取引条件について必要な情報が記された書面を買い主に渡すことが義務付けられています。

法律上の制限や有効な避難路を確保するための道路の条件、インフラの供給情報など、その物件に安心して住み続けるための情報が載っている重要な書類ですが、不動産屋さんへ聞くとお客様の中には真剣に読まない方もいるそうです。

2019年の台風19号による被害を受けた福島県郡山市では被災した家屋が多数出ましたが、その中には東日本大震災で被災し浜通りから移転してきた方もいたそうです。周りの住人はその土地の危険性を知っていたため「俺たちなら買わないよなあ」と話していたと郡山市で活動するハートネットふくしまの吉田さんから伺いました。

この売買できちんと重要事項説明書で災害危険区域の説明がされていたらこのような悲劇は避けられたのではないのでしょうか。

(宇田川)

白井元会長ご逝去

永年当会の会員として支えてくださった白井保さんが8月6日に亡くなられました。8年前までは第3代会長としても当会の中心となってくださり、その後も会員として参加してくれました。

連絡会として弔意を表すためお香典とお線香をご遺族にお届けしました。

謹んでご冥福をお祈りいたします。

(会員一同)

【編集後記】

- ▶ 台風の数例年9月は5~6個だそうです。しかし今年の9月は1個でした。気が抜けたような感じではありますが、良かったです。でも線状降水帯にあった地域の方は、とても気の毒でした。やはり、準備は大切ですね。(付岡)
- ▶ 携帯翻訳機ポケトークは、外国人だけでなく、「日本語→日本語」とすれば日本人ろう者にも情報伝達できます。避難所に備えては?(室伏)
- ▶ 10月に入っても大きな台風が発生しています。関東に上陸していませんが、気温と水温が高い今年は、しばらく注意が必要だと思います。(鴨下)
- ▶ 気候不順で体調維持が大変です。そのような中で、あじさいの会会長の宮腰さんの訃報がありました。突然のご逝去で言葉もありません。ご冥福をお祈りします。(中島)